

平成29年度事務事業評価シート(28年度実績)

◎基本情報

事務事業名	人権文化祭開催事業		担当部署	健康福祉部 人権推進課 人権福祉センター	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市人権条例・鳴門市隣保館 条例	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	昭和 <input type="text" value=""/> 49 年度
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なんと			
(小項目)		人権			
施策	1	人権の尊重			
基本事業	1	人権行政の推進			
			終期	未定 <input type="text" value=""/>	

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市民、行政機関、学校、企業、NPO法人、社会福祉法人、団体など						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	保育所・幼稚園・小・中・高等学校・社会福祉法人・NPO法人・市民等及び行政による人権問題に関する作品の展示や人権劇・講演会などを通じて、市民等に人権問題の存在とその解消に向けた取組みや人権尊重の大切さを理解し行動していくことにより、同和問題をはじめ、あらゆる人権問題が解消されるとともに人権が尊重されるまちづくりに取り組む。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	人権意識の普及・高揚を図る取り組みとして、第43回鳴門市人権文化祭を開催する。なお、前年度の同和カルタ大会が好評であったため小学生児童を対象に引き続き同和カルタ大会を開催する。 開催に際しては、少子化に伴う展示作品数の減少が懸念されることから、今年度も人権文化祭の展示内容充実の観点から、社会福祉法人からの作品展示への参加について協力を継続要請し、展示数の維持と内容充実を努める。 また、参加者数の増加につなげるため、人権文化祭の移動展示を拡充し、開館時間や日程を延長し、行政・学校・市民の来場者数の増加を図る。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		人権文化祭来場者数	9,400	9,500	9,500	9,500	9,500	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	平成27年度の人権文化祭での反省点や参加者の感想、アンケート結果などを踏まえ、より一層内容を充実し、多くの市民の方々が参加していただけるように、次の取り組みを進めた。 ①NPO法人や社会福祉法人等からの作品展示の要請継続した。 ②平成28年度から始めた四国大学学生とのふれあい広場事業について、成果報告の形で初めて四国大学からパネルを出品してもらった。 ③ヘイトスピーチ解消法が平成28年5月に成立したことを受け、在特会のヘイトスピーチ被害を受けた、元徳島県教職員組合書記長を講師に招いて、記念講演会とは別に前夜祭講演会を開催した。 ④人権文化祭期間中の開館時間を150分延長、19:30までとした。 ⑤人権文化祭期間中に、第一中・第二中生徒作成の人権劇DVDを定期的上映した。 ⑥好評である同和カルタ大会は、小学生児童及び児童クラブにも参加周知を図り引き続き規模を拡大して実施した。						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他							
指標名		27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	人権文化祭展示作品数	2,044	1,939	2,200	2,200	2,200	件
	2	人権文化祭講演会来場者数	160	150	170	170	170	人
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	人権文化祭来場者数		9,517	8,610	—	—	—	人
	目標達成率(実績/目標)			90.6	—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり				

(千円)

財源内訳	平成28年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	628	0	0	412	1,040
		補正予算額		0	0	0	0	0	0
		繰越予算額		0	0	0	0	0	0
		全体予算額		0	628	0	0	412	1,040
		決算額		0	545	0	0	404	949
		繰越額		0	0	0	0	0	0
		人件費		正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)	総人件費		総事業費	
		1.0	0.0	7,133		8,082			

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	870	949	1,021	1,021	1,021
	うち一般財源	280	404	304	304	304
	人件費	6,859	7,133	4,588	4,588	4,588
	総事業費	7,729	8,082	5,609	5,609	5,609

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		展示作品数及び記念講演会の来場者数はともに減少したが、活動指標の80%以上であったためB評価としたい。
	効率性	B:概ね効率的だった		
②成果に対する評価	指標名	人権文化祭来場者数		成果目標の9,500人には達しなかったが、来場者数は目標の90%以上であったためB評価としたい。
	目標	9,500	人	
	実績	8,610	人	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		活動指標だけでなく成果指標も目標には達しなかったが、記念講演会は目標の80%以上、全体の来場者数は目標の90%以上であったためB評価としたい。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	平成28年12月に部落差別解消推進法が施行され、行政の責務が明確にされました。また、差別落書きやインターネットへの不適切な書き込み等や、障がい者問題などさまざまな人権問題においても、人権侵害の事象が発生しているなど、なお一層の人権教育・啓発が必要であることから、今後も人権文化祭開催事業を継続すべきである。 また、平成29年度より開始したデイサービス事業などで、地域全体に開かれたコミュニティセンターとしての役割を推進し、市民全体に開かれた人権文化祭の運営形態が求められる。平成29年度に隣保館運営審議会の答申がなされることから、将来に向け答申内容を反映できるような人権文化祭の運営形態を検討していく。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の人権文化祭での参加者の感想やアンケート結果などを踏まえ、引き続き人権文化祭開催時間の延長するなどし、来場者数の増加を図る。 来場者数増加のため、開催時間の延長だけでなく、盲導犬の体験型イベントを実施する。 少子化などによる学校の負担軽減のため、電子データの活用などの検討行う。 人権文化祭開催の節目の年などに人権文化祭記念講演会(大麻中人権劇を含む)の出張講演会を検討する。 			
	H30年度	より一層の人権意識の普及・高揚を図るとともに、さらなる来場者の増加を図るとともに、人権文祭開催イベントとして同和カルタ大会に加え、来場者が体験・参画できるようなイベントを企画するなど、新たな事業を検討する。また、予定されている耐震化工事に伴い、工事期間や建物使用の可否など人権文化祭への影響などの洗い出しと対策を検討する。			